

路線名： 国道 1 5 8 号他

箇所名： 松本市 奈川・安曇地区

小規模維持補修工事（道路）特記仕様書

令和 7 年 3 月

長野県松本建設事務所

第1条 総則

この特記仕様書は長野県土木工事共通仕様書（建設部）（令和3年10月1日適用）（以下「共通仕様書」という。）に規定する特記仕様書で、小規模維持補修工事に適用する。

1. 当該工事の施工にあたっての一般的事項は、「共通仕様書」によるものとする。
2. 受注者は、別紙「道路維持補修業務の民間委託に伴う維持補修工事に係る大規模地震発生時の道路パトロール運用要領（案）」（以下、「運用要領（案）」という。）により、大規模地震（震度6弱以上）が発生した場合、自主的に道路パトロールを行うこととする。

第2条 現場代理人及び主任技術者

1. 当該工事の現場代理人及び主任技術者又は監理技術者は、請負者が入札時に提出した技術提案資料に記載した配置予定の者でなければならない。
2. 配置技術者は建設業法第26条第1項の規定によらなければならない。また、他の工事との兼務は可能とするがその工事の請負額が3,500万円以上の場合にはこの限りではない。
3. 現場代理人は工事現場に常駐しなければならない。
4. 契約中における配置技術者の交代については、「監理技術者制度運用マニュアル」（平成28年12月19日付 国土建第349号）に定めるとおりとする。

第3条 施工計画書

1. 受注者は工事を実施するにあたって共通仕様書1-1-1-6に定める施工計画書を提出しなければならない。また、現場組織表を変更する場合は、速やかに提出しなければならない。
2. 受注者は施工計画書に基づき工事を実施する場合は、作業日、工程、箇所及び数量等について予め監督員と協議することとする。
3. 受注者は、運用要領（案）に基づくパトロールの実施体制表について、施工計画書に記載し、実施計画について予め監督員と協議することとする。

第4条 貸付機械等

当該工事において長野県が管理する建設機械を受注者に貸し付ける場合は、その取扱いについて別途定めるものとする。

第5条 廃棄物及び建設副産物

1. 受注者は、本工事の施工に伴い発生した産業廃棄物及び一般廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理しなければならない。
2. 共通仕様書第1編第1章1-1-1-23建設副産物の第4項、第5項及び第6項の規定における提出にあたっては、事前に監督員の確認を受けるものとする。

第6条 施工管理等

1. 当該工事の施工管理は、「長野県土木工事施工管理基準」によるものとする。
2. 当該工事の写真管理は、「写真管理基準」によるものとする。

第7条 工事中の安全確保

1. 受注者は工事の施工にあたっては周辺の地形・地質・交通状況等に応じ、十分な安全確保に努めなければならない。
2. 工事期間中、特に夜間においては道路灯、バリケード等を設置し、十分な安全確保を行わなければならない。
3. 工事の施工に際し、地下埋設物件等が予想される場合には、その管理者と立会いのうえ、当該物件の位置、深さ等を確認し、保安対策について十分打ち合わせを行い、事故の発生を防止しなければならない。
4. 受注者の責により第三者等に損害を与えた場合には、速やかに監督職員に報告するとともに、関係機関に連絡したうえで応急措置を講じ、受注者の負担により補修しなければならない。
5. 交通規制を伴う工事を実施する場合には、原則として交通誘導警備員を配置するものとし、資格者又は経験1年以上のものとする。ただし、交通量が少ない場合は監督員との協議のうえ、信号による規制等に代えることができる。

第8条 概算数量

当該工事の発注にあたり示した数量は概算数量であり、詳細については監督員の指示によるものとする。

第9条 守秘義務

受注者は、業務の遂行上知り得た内容について第三者に漏らしてはならない。また、その雇用する職員についても同様とする。

第10条 工事成績

当該工事は精算額に係わらず「長野県工事成績評定要領」の対象工事とはならない。

第11条 工事対象範囲

別添 委託範囲 のとおりとする。

第12条 小規模維持補修工事において設定する単価の端数処理

発注時の設計単価（税抜き）における端数については一円止め（端数切り捨て）としている。

除雪業務に係わる設計単価（税抜き）については百円止め（端数切り捨て）としている。

道路維持補修業務の民間委託に伴う維持補修工事に係る
大規模地震発生時の道路パトロール運用要領

(適用)

第1 この要領は、長野県建設部が管理する道路の維持補修業務の民間委託に伴う小規模維持補修工事等に係る、大規模地震発生時の道路パトロールに適用する。

(業務目的)

第2 大規模地震発生時には、人命の救急救命や、被災地の復旧・支援活動のため、早期に通行可能な路線を把握することが、「道路の啓開」とともに最優先に求められるため、民間委託している道路維持補修業務において道路パトロールを実施し、早急に道路状況を把握することを目的とする。

(業務の実施者)

第3 実施者は、小規模維持補修工事等に係る施工体制確認型契約方式の入札により契約した企業または特定共同企業体（以下「受注者」という。）とする。

(業務の実施)

第4 受注者は、受注した地区の建設事務所管内において、震度6弱以上の地震が発生し、かつ受注地区の市町村で震度4以上を観測した場合に、建設事務所等からの連絡の有無に係わらず自主的に道路パトロールに出動することとし、業務手順は「別添1」に示すとおりとする。

（なお、震度5強以下までの地震発生の場合は、建設事務所職員がパトロールを行うため、受注者の出動は実施しない。）

2 受注者は「別添2」に示すパトロールの実施体制表について、小規模維持補修工事の施工計画書に記載し、実施計画について予め監督員と協議することとする。

(業務の対象範囲)

第5 パトロールの対象範囲は、受注した地区の建設事務所管内において、震度6弱以上の地震が発生し、かつ受注地区内で震度4以上を観測した市町村における全ての建設事務所管理道路（以下「対象道路」という。）とする。

(業務の内容)

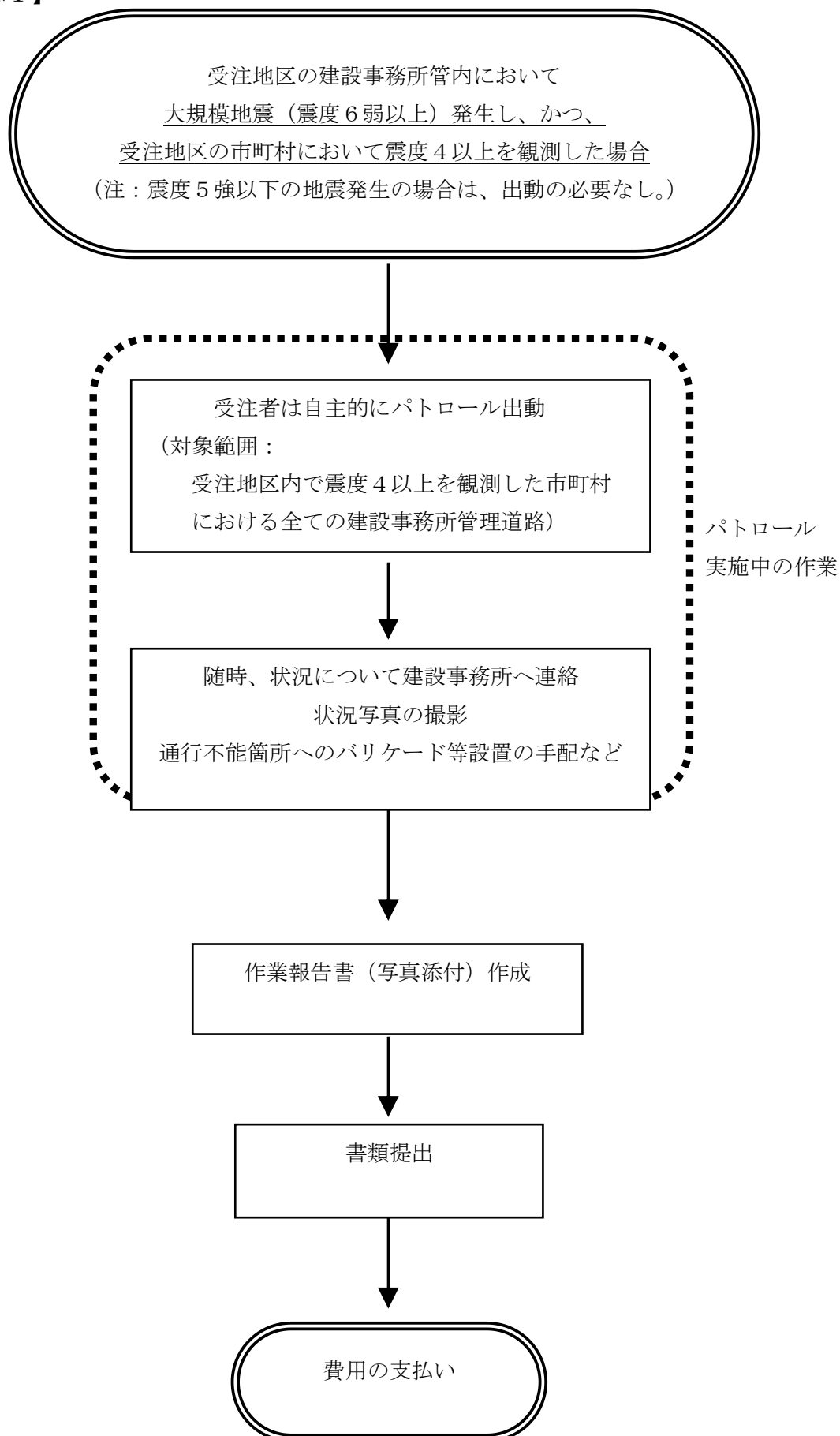
第6 パトロールの内容は以下のとおりとする。

- (1) パトロールは少なくとも2名体制で行うこととする。
- (2) 対象道路について状況を把握し、管理する建設事務所にこまめに状況について連絡をする。連絡手法については、事前に建設事務所と確認することとする。
- (3) 緊急輸送道路の状況把握と、通行可能な対象道路の把握を最優先とする。
- (4) 地震発生後、できるだけ早期に完了するよう実施する。（概ね3時間以内でのパトロール完了を目途とする。）
- (5) 通行不能箇所や危険箇所については、バリケード等の設置を手配することとする。
- (6) パトロール中の写真を撮影し、後日、作業報告書（写真添付）を建設事務所に提出する。

(業務費用の支払い)

第7 業務についての費用についての支払いは「土木施設における小規模維持補修工事試行要領」の規定によるものとし、支出科目は「役務費」とする。

【別添1】



【別添２】

大規模地震（震度６弱以上）時の道路パトロールの実施体制表

パトロール路線名 (区間)	パトロール実施者、地震時連絡先			備考
	担当会社名	氏 名	連絡先（携帯番号）	
(記載例) (国) ○○○号 (◇◇◇◇～△△△)	△△建設（株）	○○ ○○		第一連絡者
		◇◇ ◇◇		
		□□ □□		
	(上記が出動不能な場合) (株)◇◇建設	○○ ○○		
	(上記が出動不能な場合)			
	(上記が出動不能な場合)			
	(上記が出動不能な場合)			
	(上記が出動不能な場合)			

(※ 受注地区内の全ての県管理道路について記載すること。)

小規模維持補修工事用機械無償貸付仕様書

(機械の貸付)

第1条

- 1 貸付機械は発注者が受注者に貸付けるものとし、発注者はあらかじめ名称、型式、使用目的、並びに引き渡し場所、返納の場所(別表1)について定めた機械貸付決議書を整備するものとする。なお、貸付期間又は日数は別途協議するものとする。
- 2 発注者は、機械を貸し付けたときは、受注者から「小規模維持補修工事用機械借用書」(様式1)(以下「借用書」という。)を徴さなければならない。
- 3 発注者は、機械を発注者の指定した日時及び場所に受注者又はその代理人を立ち合わせ、当該機械の整備状況を確認させたうえ借用書と引き替えに貸し付けるものとする。

(貸付機械の管理)

第2条

- 1 受注者は、貸付期間中善良な管理者の注意をもって機械を管理しなければならない。
- 2 受注者は、機械の使用、管理等については、次の各号に掲げる事項に注意し常に監督員の指示に従い機械の機能保持に努めなければならない。
 - (1) 機械は担保に供しないこと。
 - (2) 機械は、貸付を受けた使用目的以外の用途に使用しないこと。
 - (3) 機械の日常整備(グリス塗布を含む)を完全を実施すること。消耗品(清掃車ブラシ等)は摩耗状況等を判断して引き渡しを行う。使用した日は、必ず洗車を行うこと。
 - (4) 機械の整備及び運転については、当該機械に精通した熟練者を当てること。
 - (5) 発注者は、受注者が機械の引き渡しを受けた後に正当な理由なしに機械を使用しない場合、又はこの仕様書に違反した場合には機械の返納を命ずることができる。
 - (6) 受注者は、貸付機械が次の事項に該当したときは、遅滞なく監督員に連絡してその指示を受けるものとする。
 - ①故障、損耗等により正常な運転が出来ない時、またはそのおそれのあるとき。
 - ②事故発生時

(貸付機械の損害の負担)

第3条

- 1 受注者は、機械を亡失し又は毀損したときは直ちに発注者の指示を受けなければならない。
- 2 受注者は、前項の亡失又は毀損が自己の責に帰すべき事由によるときは、発注者の指示に従い、すみやかに機械を修理し又は代品を納め、若しくはその損害を賠償しなければならない。
- 3 天災その他の不可抗力によって機械に関して損害が生じたときは、その損害の補償について発注者、受注者協議して決定するものとする。

(貸付機械の返納)

- 第4条 発注者は、貸付機械を返納させる場合には発注者の指定した日時、場所において受注者又はその

代理人を立ち合わせ当該機械の整備検査を行い、支障がないと認めたときはこれを収納するものとする。この場合において受注者は、「小規模維持補修工事用機械返納書」(様式1)を提出するものとする。

(貸付期間又は日数の変更)

第5条 受注者は、機械の貸付期間又は日数の変更を希望する場合は、あらかじめ理由を付して受注者に提出しなければならない。発注者は正当な理由が認められる場合には、貸付期間又は日数を変更することができる。

(貸付機械の使用実績)

第6条 受注者は、「小規模維持補修工事用機械使用実績報告書」(様式2)により機械の運転等について発注者に報告しなければならない。

(貸付機械の監査)

第7条

- 1 発注者は、貸付期間中に機械使用状況の監査を行うことができる。
- 2 受注者は、前項の監査により指示された事項を直ちに履行し、その結果を発注者に報告しなければならない。

(貸付機械の経費負担)

第8条 次の各号に掲げる諸費用は受注者の負担とする。

- (1) 機械の監査に直接必要な経費
- (2) 機械の引渡・返納に要する費用
- (3) 機械の機能を常に良好な状態に維持するために必要な点検、整備及び修理に要する費用
- (4) 機械の管理に要する費用

(貸付機械の任意保険)

第9条 発注者は、下表条件の任意保険に加入している。なお、受注者が条件以上の保険に加入することを妨げるものではない。

(表-1:排水ポンプ車以外)

保険加入条件	対人保険	無 制 限
	対物保険	無 制 限(免責なし)

(表-1:排水ポンプ車)

保険加入条件	対人保険	1,000 万円
	対物保険	100 万円(免責 0 円)

別 表 1

受注者に貸与できる機械は下記のとおり

機械名	規 格	機械番号	使用目的	引き渡し場所	返納場所	備 考
トンネル点検車	10m	松本 800 す 1364	高所作業	松本建設事務所	松本建設事務所	デッキ積載荷重 1 t
橋梁点検車	デッキ式	松本 800 す 3182	橋梁点検	松本建設事務所	松本建設事務所	
路面清掃車	真空式	松本 800 は 238	路面清掃	松本建設事務所	松本建設事務所	
高圧 下水管洗浄車	4 t	松本 88 す 1871	管路洗浄	松本建設事務所	松本建設事務所	
側溝清掃車	4 t	松本 88 す 8184	側溝清掃	松本建設事務所	松本建設事務所	バキューム車
草刈り車	1.5 t	松本 88 す 4013	草刈り	松本建設事務所	松本建設事務所	
排水ポンプ車	8 t	松本 800 す 3182	内水排水	松本建設事務所	松本建設事務所	30m ³ /min 級

様式1

令和 年 月 日

松本建設事務所長 様

借受人 事業者の住所
氏 名 印
代理人 氏 名 印

借用
小規模維持補修工事用機械 書
返納

する 受領
〇〇業務に使用 下記工事用機械を機能現況確認のうえ、 しました。
した 返納

記

機械名	形 式	機械番号	附 属 品			引渡しを 受けた場所	貸 付 期 間	備 考
			名称	規格	数量			

引渡し立会者
(建設事務所) 氏 名 印

(借 受 人) 氏 名 印

除雪作業実施要領

(目 的)

この要領は、長野県建設部の発注機関の長（以下「発注者」という）が、発注する車 道除雪、歩道除雪、及び凍結防止剤散布作業（以下「除雪業務」という）に必要な事項について定め、受注者が、適正かつ安全に業務を理工するとともに、第三者への事故を防止することを目的とする。

1 共通事項

- 1 除雪、散布機械については、常に安全に作業が行える状態を保つよう、日常管理を適正に行うとともに、除雪、凍結防止剤散布作業にあたっては、第三者や作業従事者の安全確保、及び事故防止に努めること。
- 2 除雪、凍結防止剤散布作業は、運転手、及び助手(または作業員)の2名で行うこと。
- 3 機械の運転者は、法令で定められた免許所有者とし、
「車両系建設機械技能講習修了証」が必要な作業の場合は、技能講習修了者とする。
- 4 作業は、視界が確保できる状況で行うように努めること。
また、霧や地吹雪 等で周囲の視界確保が困難な場合は、作業を一時中断するなどして、安全な状況での作業実施に努めること。
- 5 作業従事者は、自己の健康管理を徹底し、良好な状態で作業を行えるように心掛けること。
- 6 作業中は、第三者に対して、できるかぎり迷惑を及ぼさないように注意すること。
- 7 作業に使用する機械について、用途外、及び能力的に無理な使用は行わないこと。
- 8 機械の運転者、及び助手は、作業の終了後は、使用機械の清掃、点検を行い、次回の作業に支障が無いように整備しておくこと。
- 9 作業中に事故 等が発生した場合には、直ちに応急処置を行うとともに、関係機関 等に速やかに連絡をすること
- 10 作業現場の状況により、特別な安全処置が必要な場合は、監督員 等と協議のうえ、必要な処置をとること。

2 除雪作業関係事項

- 11 除雪作業は、通行車両の円滑な走行ができることを目標として作業を行うこと。事前に、除雪作業路線の状況、作業障害物、作業実施前の破損物、作業予定日の気象等を十分に把握し、効率的かつ効果的な作業を行うこと。
- 12 作業使用機械は、作業中、天候にかかわらず前照灯、及び回転灯を点灯し、「除雪作業中」の表示をすること。
- 13 作業使用予定機械で無登録の機械は、申請し、自動車登録番号標(ナンバープレート)を取り付けること。
- 14 作業使用機械には、赤旗、発煙筒、携帯ライトを備え付けること。
- 15 作業助手（または作業員）は、作業中の安全管理にあたるものとし、その他、使用機械の日常整備（グリス塗布を含む）、清掃等を機械運転者と協力して行うものとする。
- 16 作業中、機械の周囲の安全が十分確認（確保）できない時は、作業助手は、降車して誘導し合図を行い、安全を確保すること。
- 17 作業使用機械を作業現場に運搬する場合は、運搬経路舗装面、構造物を損傷しないように行うこと。
- 18 作業の実施にあたっては、道路施設、及び道路付属物（標識、ガードレール、ガードケーブル、カーブミラー等）を破損しないように努めること。
- 19 作業区間の起終点（作業箇所の前後）には、作業中を示す看板等を設置すること。作業区間が広範囲にわたる場合は、適宜設置場所を移動して作業を行うこと。
- 20 道路状況により、必要と思われる場合には、広報等を行い周辺住民に注意を喚起する処置をとること。
- 21 定員1名の搭乗式機械で作業を行う場合、作業助手（または作業員）は、自らの安全を確保しつつ、作業機械の先導、後方確認等を行うものとする。
- 22 視界不良により作業機械周囲の安全を確認することが困難な場合、作業助手（または作業員）は、自らの安全を確保しつつ、作業機械の誘導を行うものとする。作業助手の誘導によっても安全が確保できない時は、作業を中止すること。

3 作業報告、及び業務完了届けについて

- 23 受注者は、作業を実施した場合には、交通確保状況、及び作業機械 機種別の稼働時間を監督員 等に報告すること。報告内容、報告頻度 等は、監督員 等と協議を行うこと。別途、協議により定める作業日報、タスクメーター記録紙、作業状況写真 等を整理し、作業に関する書類を発注者に提出すること。

4 その他

除雪工実施区間は、主要地方道 上高地公園線 松本市 安曇 中ノ湯～バスターミナル 他間（約 5.9km）とし、除雪実施期間は、令和 5 年 4 月 1 日から令和 5 年 5 月 31 日 までとする。

異常気象時の通行規制に伴うゲート閉鎖要領（案）

（適用）

第1 この要領は、長野県松本建設事務所が管理する道路において、雨量事前規制による通行規制を行う場合のゲート閉鎖業務に適用する。

（業務目的）

第2 豪雨等の異常気象時において管内の道路交通の安全を確保するため、遠隔地におけるゲート閉鎖を円滑に行うことを目的とする。

（業務の実施者）

第3 実施者は、小規模維持補修工事等に係る施工体制確認型契約方式の入札により契約した企業または共同企業体（以下「受注者」という。）とする。

（業務の実施）

第4 受注者は、受注した地区内の「別添1」に示す路線において、松本建設事務所からゲート閉鎖の指示があった場合に閉鎖業務を行うこととし、業務手順は「別添2」に示すとおりとする。

2 受注者は「別添3」に示す通行規制時におけるゲート閉鎖の実施体制表について、小規模維持補修工事の施工計画書に記載し、監督員に提出することとする。

（業務の内容）

第5 ゲート閉鎖の内容は以下のとおりとする。

- （1）ゲート閉鎖は少なくとも2名体制で行うこととする。
- （2）ゲート閉鎖を行う場合は松本建設事務所から受注者へ事前連絡を行う為、受注者は速やかに体制を整えることとする。建設事務所からの連絡は、緊急時連絡体制によることとする。
- （3）ゲート閉鎖の時間は松本建設事務所から連絡するが、県境や管外の建設事務所にまたがる路線は閉鎖時間の調整があるので留意すること。
- （4）通行不能箇所や危険箇所については、バリケード等の設置を手配することとする。
- （5）ゲート閉鎖中の写真を撮影し、後日、作業報告書（写真添付）を建設事務所に提出する。
- （6）ゲート解除は原則松本建設事務所で行うが、緊急時等建設事務所から依頼があった場合は受注者が対応することとする。

（業務費用の支払い）

第6 業務についての費用についての支払いは「土木施設における小規模維持補修工事試行要領」の規定によるものとし、支出科目は「役務費」とする。

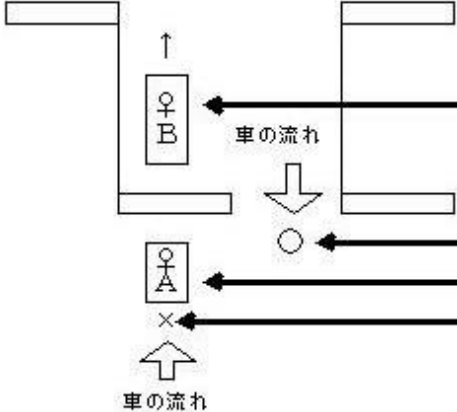
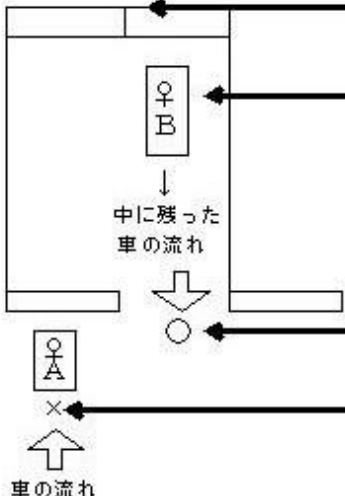
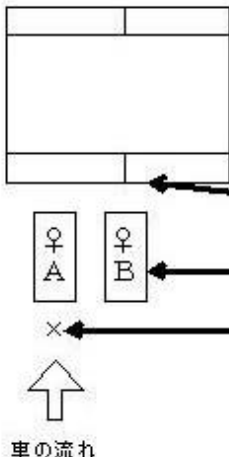
【別添 1】

雨量事前規制路線・区間及び規制基準等

路 線 名	区 間		規制基準		雨量計
	規 制 区 間	延長	通 行 止	通行注意	【系統別】
国道 158 号 (本線)	松本市安曇 湯川渡 ～ 安房トンネル	14.2km	連続雨量 80mm 時間雨量 20mm	時間 5mm	沢渡 【道路】
国道 158 号 (旧道)	松本市安曇 中ノ湯 ～ 安房峠	7.2km	15 分雨量 10mm		中ノ湯 【道路】
上高地公園線	松本市安曇 中ノ湯 ～ 上高地 (パスターミナル)	6.3km	同 上	同 上	上高地 【砂防】
乗鞍岳線	松本市安曇 休暇村 ～ 乗鞍岳山頂 (県境)	17.5km	同 上	同 上	乗鞍 【砂防】
白骨温泉線	松本市安曇 湯川渡 ～ 白骨温泉	3.8km	同 上	同 上	白骨 【道路】
奈川木祖線	松本市奈川 寄合渡 ～ 境峠	6.1km	同 上	同 上	川浦 【道路】
奈川野麦高根線	松本市奈川 川浦 ～ 野麦峠	6.1km	同 上	同 上	川浦 【道路】
松本和田線	松本市 長和町 入山辺 ～ 扉峠	6.8km	通年全面通行止 (H25.6～)		
					山辺 河川】

【別添 2】

業務手順

配 置 図	内 容
<p>1 下のゲートを半分閉鎖</p> 	<p><u>松本建設事務所からゲート閉鎖の依頼</u></p> <p>① Bは上のゲートに向かう。</p> <p>② 下りの車は通過させる。</p> <p>③ Aが下のゲートを半分閉め、残る</p> <p>④ 上りの車は通行止にし、迂回等を指導する。</p>
<p>2 上のゲートを閉鎖</p> 	<p>① Bは上のゲートを閉鎖する。</p> <p>② Bはゲート内に残っている車がないか確認しながら下のゲートへ向かう。</p> <p>③ 下りの車は通過させる</p> <p>④ 上りの車は通行止にし、迂回等を指導する。</p>
<p>3 下のゲートを閉鎖 (完了)</p> 	<p>① 下のゲートを閉鎖する。</p> <p>② 閉鎖した旨を松本建設事務所へ連絡</p> <p>③ 上りの車は通行止にし、迂回等を指導する。</p>

【別添 3】

通行規制時におけるゲート閉鎖の実施体制表

路線名 区間	担当会社名			備考
	担当会社名	氏 名	連絡先（携帯番号）	
国道 158 号（本線）	△△建設（株）			
松本市安曇				
湯川渡 ～ 安房ノ礼		電話		
国道 158 号（旧道）	△△建設（株）			
松本市安曇				
中ノ湯 ～ 安房峠		電話		
上高地公園線	△△建設（株）			
松本市安曇				
中ノ湯 ～ 河童橋		電話		
乗鞍岳線	△△建設（株）			
松本市安曇				
休暇村 ～ 乗鞍山頂		電話		
白骨温泉線	△△建設（株）			
松本市安曇				
湯川渡 ～ 白骨温泉		電話		
奈川木祖線	別途対応			
松本市奈川				
寄合渡 ～ 境峠				
奈川野麦高根線	別途対応			
松本市奈川				
川浦 ～ 野麦峠				

緊急時連絡体制による